

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308690		
法人名	湯の越の里株式会社		
事業所名	グループホーム湯の越の家		
所在地	秋田県南秋田郡五城目内川浅見内字後田125番地5		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・四季の移り変わり(若葉、満開の桜、紅葉、冬景色)を楽しめる環境で生活できる。 ・ほとんどの方が利用されている病院(湖東厚生HP)との連携により病状の把握が確実に見える。 ・レクリエーションやアップ体操による健康管理ができる。 ・毎日の食事のほかに郷土食(漬物、山菜料理)を楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者、介護支援専門員が新任となってから期間が浅く、利用者、家族との関係づくりに苦悩しながら利用者が楽しく、穏やかに生活できる環境づくりに努力しています。外出や面会の自粛等で制限のある生活となっておりますが、外気に触れる機会をつくり、工夫を凝らしながら利用者の支援に取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り等にて事業所理念を復唱し職員全員が理解し実践につなげている。	毎朝理念を斉唱することによって意識づけを図り、実践に繋げていけるよう努めています。	
	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは、地域の行事等に参加して交流を深めていたが、今年は「新型コロナ」のため行事が行われずにいる。	例年であれば運営推進会議を通じて地域の情報を得、運動会等に出かけて地域の方と交流を深めていたが、新型コロナウイルスの影響で交流ができない状況が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「新型コロナ」の影響で今年は交流が出来ないでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「新型コロナ」の影響で今年は開催が出来ないでいるが、12月より委員の皆さんにプリントにより利用者様の近況報告を報告し、ご意見等を返信して頂き、職員会議で話し合っサービス向上につなげている。	職員不足等の事情により今年度は開催されておりませんが、現在は解消されており、当面は書面での対応にはなるものの、近々に開催を予定しています。	運営基準に基づいて定期開催し、開催することによって得られる参加メンバーの意見を運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネが五城目町、八郎潟町や井川町の担当課と常に連絡を取り合っ、利用者様の状況を報告し指導を仰いでいる。	管理者が交代したこともあり、窓口に出向いて連絡を取り合い、顔の見える関係づくりに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や朝の申し送り等を利用して身体拘束をしないケアを正しく理解しようと話し合っている。日中の玄関は掛けない、各居室のカギは閉めないなど、できるだけ身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束に関する勉強会を行って職員の理解を深める努力をしています。現在、拘束にあたる事例がありますが、経過観察と共に必要な記録を残しており、常時施錠されていた通路は現在は解放されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待について話し合う機会がある。何気ない言葉遣いや行動が虐待の前触れにならない様注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて勉強会を実施している。以前あった事例等を活用して検討会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、ゆっくりとできるだけ分かりやすい事例等も交えて説明し利用者、ご家族の理解・納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	12月から毎月1回、ケアマネが利用者様の意見等を伺い文書にして職員会議やご家族に報告している。	介護支援専門員が家族に必要な応じて連絡し、話を聞く機会をつくっています。家族との連絡事項はケア記録に残し、申し送りで共有しています。苦情は出ないものの、ケアの要望に対しては都度対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で出席者全員に何かしらの意見を発して頂き、介護に意欲的に取り組んでもらえるよう対処している。	職員会議に施設長が参加しており、街灯を設置してほしいという要望等、職員の意見を聞く体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある環境づくりのため、職員会議にて自由に意見を言い合える雰囲気作り、笑顔のある職場環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部開催の研修会参加や職場内での勉強会を続けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町や地域主催の研修会等に積極的に参加し今後とも交流を深めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初日は特に不安が多いので、できるだけケアマネが多く接してご本人との今後の関係を親密なものになれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後にご家族から多くの情報を得て、出来ること、出来ないことを伝え、可能な限り要望に応えられるよう対応している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、職員は常に先輩から学ぶことを心して対応している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回や特変があった時にケアマネが利用者様の状況をご家族に報告し適切な支援ができるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等の情報をもとに、利用者様が今までの関係が継続できるよう出来るだけの支援を行っている。	コロナ禍で家族の協力を得ることが難しいこともありますが、行きつけの理美容院の利用等で関係継続の支援に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今はないが、皆さんの輪の中には入れない利用者様に対しては職員がご本人と十分と話し合い皆さんの輪の中へ入れるよう促す等の対応をとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が入院し、その後お亡くなりになられた元利用者さんに、ケアマネがお焼香に向き在りし日を語り合った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などで一人ひとりの希望や意向を聞き把握に努めている。	日常の関わりの中で意向の把握に努めています。利用者との会話や行動から、また入浴介助時の会話から得た職員の気づきを連絡ノートに記入し、申し送り等で共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴を聞き経過の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や意向に合わせ現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族や関係機関から意向を聞き、定期的にケアカンファレンスを開催し、より良いプラン作成に努めている。	サービス担当者会議で職員、関係者の意見を確認し、介護計画を作成しています。介護計画の見直しに効果的に反映できるように、記録様式の見直しを検討しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録を作成し、情報共有しながら見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の方々との交流は続けていたが、今年度は新型コロナ禍により交流は出来ていない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関は、ほとんどの利用者様が以前から総合病院に通院されており、医療相談は適切に行われており、また、かかりつけ薬局も病院傍の薬局と相談することが多い。	医療機関の少ない地域であることから、協力医がかかりつけになっています。転院にあたっては適切に支援できるよう協力医と連携が図られています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師には、利用者様の日々の健康状態を説明し、訪問看護師からも都度適切なアドバイスを受けている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院主催の入退院のカンファレンスに参加し情報の共有を図り、入院時の施設からの「入院時連携シート」を早急に提出し関係づくり図っている図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けて、施設で出来ること出来ないことをご家族等に説明し、今後の方針を話し合うようにしている。	かかりつけ医との連携体制や職員の態勢を踏まえ、今後の方針を検討しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や避難の初期対応はまだ実施していないが、今後早急に消防署と相談の上、実施したい。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月に消防、警察や行政のご協力を頂き、水害時の避難訓練を実施している。今年度中に夜間を想定した施設内の避難誘導訓練を計画している。	水害を想定した訓練では婦人会の方々に協力していただいています。	これまでの画一的な訓練を見直し、天候や時間帯及びその時の利用者の状態に応じた訓練を行うことで安全に避難できる対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレでの排泄時、如何にしてプライバシーが保てるか、実際に職員が実験台になり検討会を行っている。	会話の際の目線や声がけに気をつけています。管理者の車椅子での体験を通して感じ取った利用者の思いを今後の支援に活かせるように、職員にも体験してもらうことを検討しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の利用者様に対し、職員ベースで進めるのではなく、時間はかかるが利用者様の自己決定を尊重して対応することも必要であると、職員会議で話し合っている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせて自分のペースで過ごせるよう配慮している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助時に、出来るだけ利用者様自ら衣類の選択が出来るよう、声かけ等にて支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等特別な食事の準備には、利用者様と一緒に準備、後片付けが行われている。その際には会話も一段と弾んでいた。	食事の過程で利用者が関わることがないため、職員と一緒に行うことで利用者の力を活かし、食事が楽しいものとなるよう工夫していくことを検討しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を記録し、利用者様の健康状態の把握に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施しており、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、排泄時間を記録し一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	個々の状態に応じて排泄支援を行っています。適時に声かけ、誘導を行って失敗を防ぎ、排泄用品の軽減に繋がっています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄時間の記録から排便間隔を把握し、飲食物や一人ひとりの状態に合わせて健康体操を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度は施設の時間で行っているが、その時の状態や気分も伺って対応している。	夜間に対応しておりませんが、週2回の支援を行っており、車椅子の利用者も湯船に浸かって入浴しています。拒否する方には清拭や足浴、陰部洗浄を行って清潔が保持できるようにしています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースに合わせた入眠時間を把握し、日々の活動状況をみながら声かけもし対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医やかかりつけ薬剤師に状態を報告し助言を受けながら服薬管理を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、生きがいや楽しみを見つけられるよう今後とも配慮していきたい。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本来であれば週一回程度、ドライブ等に出掛けて気分転換を図りたいが、今のところコロナ禍のため出来ないているが、天気の良い日は玄関先で外気浴を楽しめるよう支援する。	感染防止のために例年のような外出を自粛していますが、紅葉狩りやイルミネーションのある通りに出かけて気分転換が図れるよう取り組んでおり、遠出をしなくても、散歩や日光浴を行って外気に触れる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを配慮した上で、小遣い銭として少額を自己管理している人もいるが、ほとんどの利用者様は、ご家族からの預かり金を施設で管理している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があれば電話できるよう、また、ご家族から電話があった場合は速やかに取り次ぐよう配慮している。手紙の書き方を忘れた方が殆どでその要望はない。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は毎日清掃し、清潔が保てるよう配慮している。ホール内は落ち着きが保たれる、過度な装飾は控えている。建築物は落ち着きが保てるよう木材をふんだんに使用している。	過度な飾りつけを避けながらクリスマスツリー等を置いて季節が感じられるように配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは広くとられており、共用のソファが置かれ十分交流できる環境になっている。天気の良い日は玄関先にベンチが置かれ日光浴をしながらのんびり過ごせるよう配慮されている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に使い慣れて物を置いたり、利用者様がくつろげるよう、入所の際予め相談できる態勢を整えている。	収納スペースが設けられており、ホームで用意したベッド、整理タンスや馴染みのものを相談しながら配置して、ゆっくり落ち着いた生活ができるよう支援しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が個々に楽しく生活できる手すりの設置や動線を考えた表示になっている。		